

主要家畜品種成立史

(44) ベルジアン種

柏村 文郎（かしわむら ふみろう） 帯広畜産大学

1. はじめに

ベルジアン種 (Belgian Draught Horse、フラマン語でHet Belgisch Trekpaard) の原産国はベルギーである。この品種は、以前、ブラバンソン馬と呼ばれていた (写真1、2)。

ベルギーは地形的には、国の中央を流れるミューズ川 (マース川) を境にして、南東側

の高地のアルデンヌ (ワロニア) 地方と北西側の海岸に達する丘陵および低地からなるフランドル地方に大別される (図)。

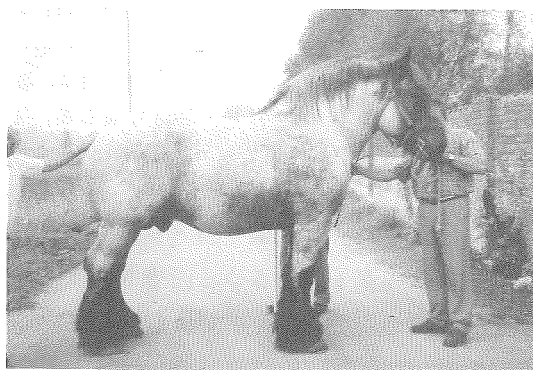
アルデンヌ地方には、ラテン系のワロン人が住み、フランス語に似たワロン語を話し、文化や風俗習慣もフランスと似ている。この地方の代表的な重挽馬はアルデンネである。

一方、フランドル地方にはフラマン人が住んでいる。フラマン人はゲルマン系の民族で、文化的にはオランダ人と似ており、フラマン語を話す。ベルギーの首都ブリュッセルは、この地方のミューズ川の北にあるブラバント州の都市である。この地方がベルジアン種 (ブラバンソン馬) の原産地である。

アルデンヌ高地の北に広がるレス (黄土) におおわれた土地は肥沃で、小麦、ライ麦、エンバクなどの穀類の産地として有名であり、ローマ時代にすでに家畜の生産地として知られていた。



写真1 ベルジアン (ベルギー挽馬)



雄7歳、鹿粕毛、体高175cm、体長185cm
写真2 ベルギーの伝統的なベルジアン

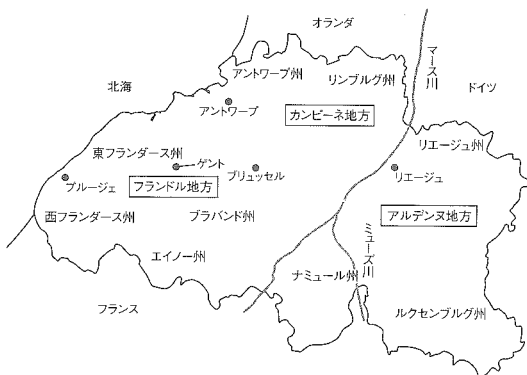


図 ベルギーの地図

2. ベルギー馬の起源

ベルギー馬の起源は、ミューズ川南岸(コンドロッツと呼ばれる地域)の新生代第四期の地層から発掘された野生馬が起源とされている。この馬は体高が140cmで、大きい頭を有していた。一説では、このコンドロッツ馬が三系統に分かれたといわれている。すなわち、一つは南東高原地帯に入ってアルデンネ馬となった系統、もう一つは川を渡り北方平原に至ってブラバンソン馬となった系統で、さらにこの系統の一部が海岸に至る低地に達してフランドル馬(Flemish horses)となったという。

いづれにしてもベルギー馬の起源は古く、紀元前57年に、この地方を通過したジュリアス・シーザーの残した記事に「粗野なれども強靱な馬を多く発見した。これらは乗鞍両用に適している」と記されている。

ローマ帝国の滅亡の後、カール大帝の時代には、この地方にゲルマン馬、リムジン馬、そしてサラセン馬が持ち込まれた。さらに、十字軍によりアラブ馬も持ち込まれたとされている。11世紀から16世紀にかけて、ブラバンソン地方やフランドル地方はヨーロッパの軍馬の生産の中心地となっていた。この地方のフランドル馬は、中世の騎士に使われたグレートホース(Great Horses)の起源とされている。この馬はBlack Horse of Flandersとも呼ばれ、その需要はたいへん多く、13世紀にはベルギーに馬がいなくなることを恐れて国外への持ち出しを禁じたほどであったという。

当時のフランドル地方はヨーロッパの商業の中心であり、そのなかにある古都ブルージュはハンザ同盟の外国貿易の4大要港の一つでもあった。しかし、火薬が発明されてから、

軍馬の需要は重厚大格馬から軽快な乗用馬に移ったので、16世紀ごろからは重厚なベルギー馬は軍馬ではなく、挽馬としてのみ用いられるようになった。

3. 育種・改良の歴史

ブラバンソン馬は、フランドル地方で純粋に繁殖されてきた馬である。かの有名なマリア・テレジア女王の治世(18世紀)には、ニベルス地方に種馬所が設けられ、東洋馬の血液を入れようと試みられたが、これは失敗に終わった。その理由は、ベルギー人が軽種馬を好まなかったためといわれている。

この馬の体格が大きいのは、気候風土の影響のほかに、確固たる選抜育種をしたこと、および燐酸塩を多く含む消化良好な飼料が豊富にあったためといわれている。1911年の共進会の優勝馬の体格は、体高172cm、胸囲225cm、管囲26cmであった。ブラバンソン馬の根幹馬は1863年生まれのオランジュ I 号(Orange I)であった。その直系の子のジュピター号(Jupiter: 1880年生)、孫のブリアン号(Brin d'Or: 1893年)がその遺伝子を受け継いだ(写真3)。

1886年に創設されたブリュッセルとリエージュの馬産組合が1891年に合併して、ベルギー重挽馬協会が設立された。しかし、ベルギー

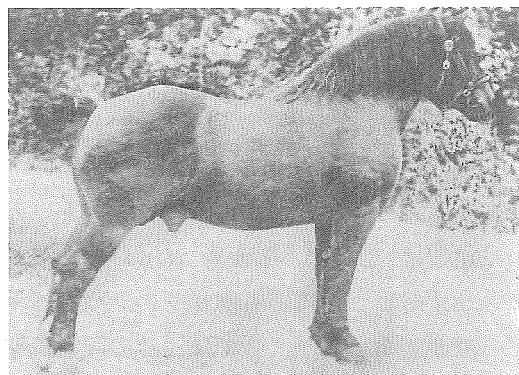


写真3 ベルギアン 根幹馬の3代目 ブリアン号(1893-1903)

ーには国立種馬所はなく、改良はもっぱら民間にゆだねられてきた。政府はもっぱら共進会や博覧会に補助金を交付したり、種馬の検査を実施した。

4. 輸出先

ベルギー馬の価値は古くから広く世界に認められており、1891年の種牡馬の輸出先をみると、ロシア、イタリア、ドイツ、フランス、旧オーストリア・ハンガリー帝国などの記録がある。なお、フランドル馬は頭数が減少し、またブラバンソン馬の種牡馬を利用していたために、現在はブラバンソン馬に同化している。

5. ベルジアン種の毛色・体型

現在のベルジアン種の毛色は、1997年に使われた種牡馬(77頭)についてみると、粕毛が64.9%と最も多く、次いで鹿毛(19.5%)、芦毛(9.1%)、栗毛(3.6%)、青毛(2.6%)の順である。標準的な体高は160～170cmで、頭は体のわりに軽い。頸は太く短く、たてがみが多く両側に分かれている。き甲は低くかつ厚く、肩は筋肉がよく発達し、長く、よく傾斜している。胸幅は広く深さは十分である。背腰は広く、筋肉がよく発達して複背を呈し、尻は幅が広く複尻を呈し、しばしば傾斜している。肢は比較的短く、筋腱はよく発達し、蹄はしばしば平蹄を呈する。性格は温順で人に従順である。

6. 生産頭数

1996年のベルギーにおけるベルジアン種の出生頭数は932頭で、生産者は607戸であった。アメリカやカナダにいるベルジアン種もベルギー原産であったが、今では、その頭数は原産地のベルギーよりも多くなっている

7. アメリカのベルジアン種

1995年の資料によると、アメリカでは4,000頭近くのベルジアン種が生産されている。ベルジアン種がアメリカに初めて輸入されたのは1866年であった。1887年には、現在のアメリカベルジアン協会(Belgian Draft Horse Corporation of America)の基礎組織が設立された(写真4)。

第1次大戦後には、ベルジアン種はコンパクトで経済的であるために飼いやすいことから、多くの農民の支持を受けるようになった。飼いやすさの理由の一つは、肢の下部に生える距毛(きょうもう)が少ないためといわれている。さらに、尾花栗毛(sorrel:赤っぽい栗毛でたてがみや尾などの長毛が白色から亜麻色)の毛色も好まれた。そして、1937年にはペルシュロンを抜いてアメリカで最も頭数の多い品種となった。

第2次大戦後になると、農村にトラックやトラクターが普及したので、重挽馬としての活躍の場が無くなり、その飼養頭数が激減した。しかし、近年は娯楽用の動物として、飼養頭数が復活してきている。

アメリカの各地で開かれるショーにおいて、halter(ハルター)、体型審査(confirmation)、馬車(hitch)などのクラスで、ベルジアン種

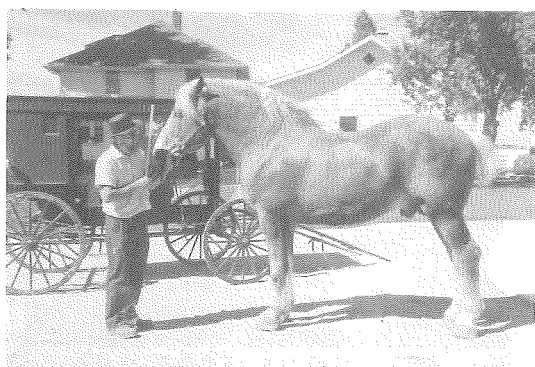


写真4 アメリカ ベルジアン協会(インディアナ州, Wabash)

は高い人気を得ている。ショーで人気の高い理由は、体高が高く、肢の長い乗馬体型で、闊達な歩様の馬が多いからである。また、プリング競技会 (pulling competitions) でも、牽引力の強い馬として高い人気を博している。アメリカには、キリスト教プロテスタントの一派で、自動車や電気を使わない生活をしているアーミッシュが数万人いるが、その人々の多くはこの品種を農作業に利用している。

アメリカのベルジアン種の毛色は、ベルギーの馬とは異なり、ほとんどが尾花栗毛である。また、アメリカのベルジアン種の体型は、肢が長く、胴の短いショータイプ (写真5) で、ベルギーのものとはかなり異なった外見をしている。

これは、1940年にドイツがベルギーに進出して以来、ベルギーからアメリカへの本品種の輸出が途絶えたために、その後はアメリカ



雄 6 歳、尾花栗毛、体高185cm、体長197cm
写真5 アメリカのショータイプのベルジアン

独自の改良が進められてきた結果であろう。よって、アメリカのベルジアン種と原産国ベルギーのベルジアン種は別の品種としてとらえた方がよいのではないかと考えられる。

なお、日本のばんえい競走馬の改良用として1974年に輸入されたマルゼンストロングホースやジアンデュマレイなどのベルジアン種はアメリカ産のベルジアン種である。

★ 「学会・研究会・シンポジウム等のお知らせ」記事の募集

本誌の「学会・研究会・シンポジウム等のお知らせ」に畜産・獣医技術に関する学会・シンポジウムなどの催し物の予定を6ヵ月前から掲載し、畜産関係者の便に供しております。

もしご予定がありましたら、行事名、日時、会場、連絡先を編集事務局宛に、随時、お送り下さい。

送り先：(社)畜産技術協会 企画情報部
〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-9 緬羊会館
TEL：03-3836-2301 FAX：03-3836-2302
E-メール：info@jlta.lin.go.jp